

はじめに

高齢化の進行により、我が国では3人に1人ががんで死亡し、2人に1人が生涯のうちにがんに罹患すると推計されています。がんは、香川県でも昭和52年以降、死亡原因の第1位であり、自分や家族にとって避けることができない健康課題となっています。

すでに、各学校でもがん予防を含めた保健教育が行われていますが、これからの子どもたちには、将来、自分自身もしくは家族としてがんに向かい合う機会の増加が予測され、がんに関する科学的な知識と正しい認識に基づく実践力を身に付けることが、より一層重要になってくると思われます。

がん教育の目的は、各学校において、がんの特化した教育を実施することにより「いのち」の大切さの理解を深め、主体的にがん予防に取り組む姿勢を育てることにあります。その結果、身近にいるがん患者やその家族に対する理解と思いやりの気持ちが醸成され、互いに支え合う社会の形成にも貢献するでしょう。がんという病気を自分たちの健康課題として捉えることは、「正確な情報」や「正しい知識」を「生きる知恵」に変え、生涯を通じて健康な生活を送るための基礎を作ることにつながります。

この目的を達成するため、本書では保健・医療関係者及び学校関係者の意見を集約し、試行的な授業の実践経験を踏まえた上で、学校におけるがん教育の基本的な考え方や進め方、さらに各学校各学年における教材の取り扱いや指導例などについて解説いたしました。本書が十分に活用され、先生方ががん教育に対する理解と認識が一層深まり、包括的ながん教育が推進されることを切に願います。そして、がん教育に携わる先生方とその教えを受けた子どもたちがともに『がんを予防し、がんに向かい合う香川県』実現の原動力となることを期待しています。

最後に、本書及び教材等の作成に当たり多大な御尽力をいただきました関係者の皆様方に対し、心から感謝申し上げます。

平成26年3月

香川県がん教育推進委員会
会長 吉澤 潔